

今週のみことば

「世に勝つ者」

(士師記6章36節～40節)

「神はその夜、そのようにされた。羊の毛だけが乾いていて、土全体には露が降りていたのであった」(40)

(ヨハネの手紙第一5章1節～5節)

「世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。」(5)

今日のメッセージ要旨

◎私達は様々な問題に直面し、また色々と困難と誘惑を受ける場合があります。それに対処する秘訣はどこにあるのでしょうか？

◎士師記は、ヨシュアの死からサムエルが生まれる前までのイスラエルの歴史を扱い、約2百年間、全国民を統一する政治的指導者も現れず、国民を統治する機構も出来ず、首都とみられる中心地もなく各部族が各々独立した行動を取っていた。士師時代に繰り返されるイスラエルの失敗のパターンが要約されている。

①イスラエルはカナンの地の先住民と妥協し、神に背いて背教と不道德に陥る。
②イスラエルに対し、異邦の民の圧迫、また隷属という方法で神の裁きが下る。
③民は神に憐れみを求めて叫ぶ。④神は祈りに応え、ひとりの救助者、さばきつかさを遣わされる。民はさばきつかさの存命中は神に忠実に仕えるが、彼が死ぬと再び背信の罪を犯す。 ◎士師記6章はギデオンの召命の箇所です。イスラエルはカナンの王の支配から解放されたのに(4-5章)、今度はミデアン人に苦しめられる(1-5)。イスラエル人は恐れて山に逃げた。種をまき、収穫を楽しみに待っていると、ミデアン人に荒らされてしまった(4)「イスラエルの子らは主に叫び求めた」(6)。主はギデオンをミデアン人を打つために召されたのです。彼は農夫で、戦いのことなど全くの無知で、戸惑い、恐れ、弱さや臆病を吐露したのです。そのギデオンに神さまは優しく寄り添われ、導かれたのです(11-24)。

◎ヨハネの手紙第一5章前半から、「イエスがキリストであると信じる者」に与えられている幸いを教えられたい。

①「神の子どもとされている」事を感謝しましょう(ヨハネ①3:1, ヨハネ1:12)。「神によって生まれた者」、新生の恵みに与っているのです(ヨハネ①4:7, 5:1, 18)。

②「神様の愛を知るものとされた」恵みを感謝しましょう(ヨハネ①3:1, 4:10, ヨハネ3:16)。私たちが神様を知る前から、神様の方が先ず私たちを愛して下さっている事実に目覚めましょう。

③「愛の掟を守る者とされる」幸いを感謝しましょう(ヨハネ15:12, ①3:23, 4:7, 11, 5:1)。私たちの生まれつきの性質では神様を愛することも人を愛することも出来ません。しかし、主イエス・キリスト様の十字架の贖罪の恵みに与るときに、罪許されるばかりか、潔められ、聖霊による神の愛を注がれて「新しい戒め」に歩む者とされるのです。即ち、主によって神の子とされた者たちが、神様を愛する恵みに導かれると共に神様によって救われた者たちを愛する恵みに与る者とされるのです。ですから、お互いに裁き合うこと自体、間違っているのです。

④「世に勝つ者」とされた恵みを感謝しましょう(ヨハネ①5:4, 5)。「世」は悪魔の支配、罪と死の支配に侵されているのです。しかし、主イエス・キリストは十字架の死と復活によって、悪魔と罪と死の支配に打ち勝って下さったのです(ヨハネ①2:14, ヨハネ16:33, コリント①15:55-56, ヘブル2:14-15)。この主イエス・キリストに対する信仰によって、私たちにも勝利を与えられるのです。

私たちも目に見える状況に左右されがちですが、私たちの側に信頼を置くのではなく、すべてに勝利して下さった主イエス・キリスト様に信頼し、そのお方を地上にお遣わし下さった神様のご愛に信頼し、勝利に与っていきたいものです。